

平成 29 年度
全国学力・学習状況調査の結果と分析

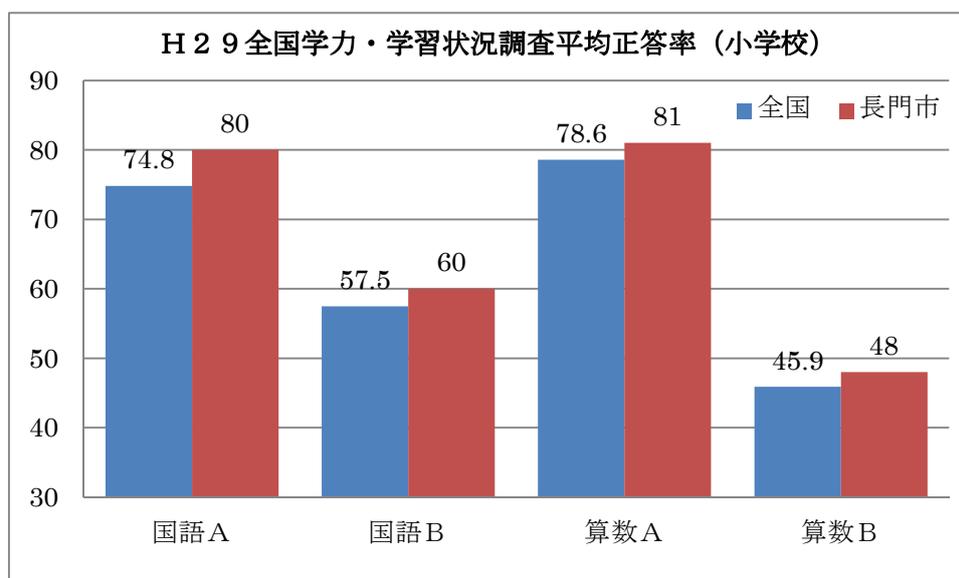
長門市教育委員会学校教育課

学力調査結果についての棒グラフの見方

- 調査対象は、小学6年生と中学3年生で、平成29年4月に実施。
- 学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。

1 学力検査の結果（○：比較的よくできている点 ●：課題がある点）

（1）小学校



前年度に引き続き、国語A、国語B、算数A、算数B、すべての科目において、全国平均を大きく上回っている。算数Bは平成26年度、平成27年度、全国平均を下回ったが、昨年度に引き続き全国平均を大きく上回った。

【国語】

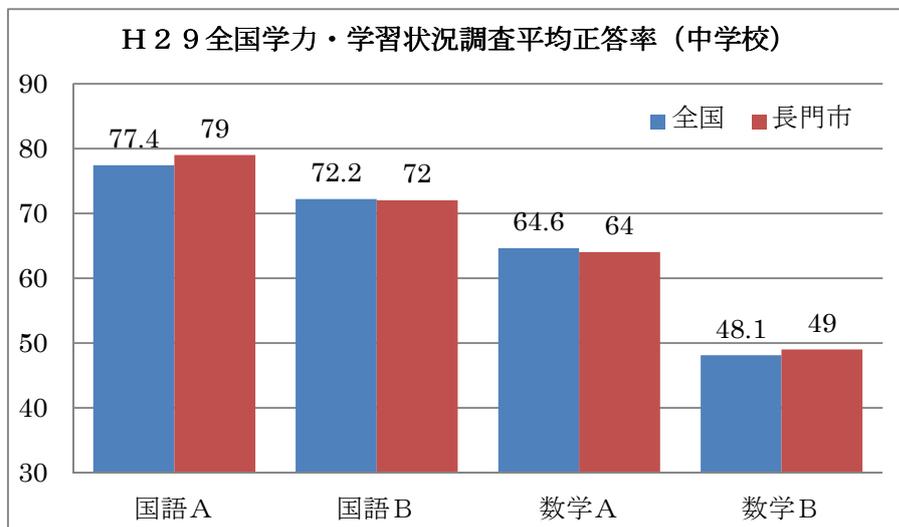
- 漢字を正しく読む。
- 俳句の情景を捉える。
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。

【算数】

- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。
- 未知の数量を表す口を用いて、問題場面を除法の式に表すことができる。
- 問題に示された2つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる。
- 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる。
- 割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ。

- 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している。

(2) 中学校



数学Aが全国平均を下回り、国語Bは全国平均と同じであった。数学科の基礎的・基本的な学習の定着と、国語科の発展的な学習の定着が課題である。

3年前、小学校6年の時は、全国平均を算数A・Bで下回っていたが、全国平均とほぼ同等となっている。

【国語】

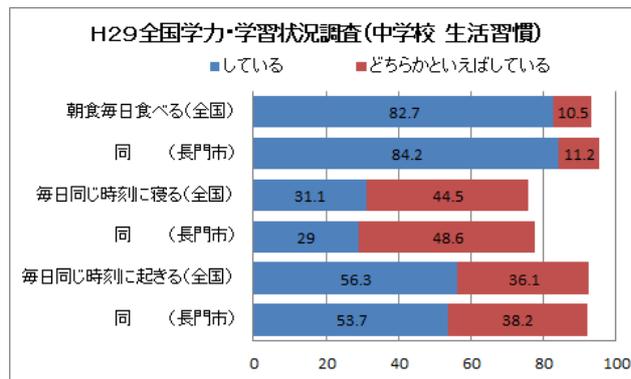
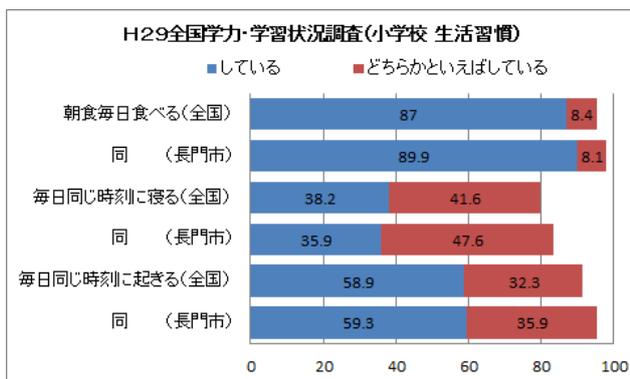
- 文脈に即して漢字を正しく読む。
- 文脈に即して漢字を正しく書く。
- 場面展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する。
- 古典には、様々な種類の作品があることを知る。
- 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。
- 必要な情報を集めるための見通しをもつ。

【数学】

- 分数の乗法の計算ができる。
- 実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数であらわされることを理解する。
- 簡単な場面について、確率を求めることができる。
- 2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる。
- 事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- 資料の傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて、説明することができる。

2 児童・生徒質問紙集計結果 (○：良い点 ●：課題がある点 ◇：その他)

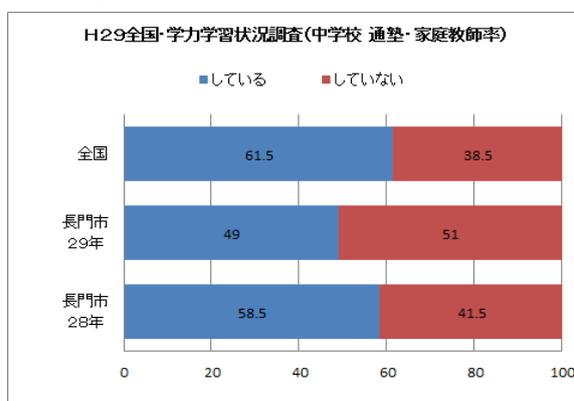
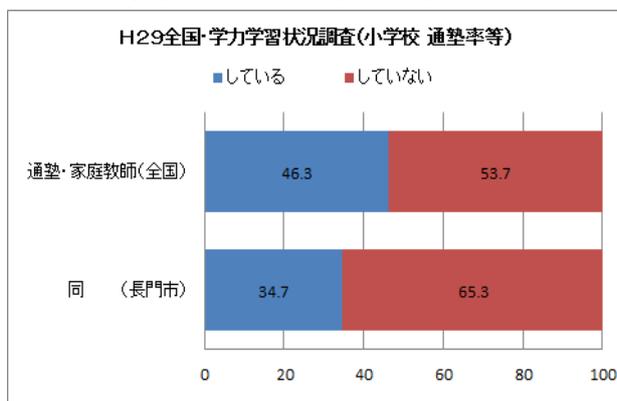
(1) 生活習慣



○朝食を毎日しっかりと食べている児童、生徒が多い。

●定刻に就寝する児童、生徒の割合が少ない。

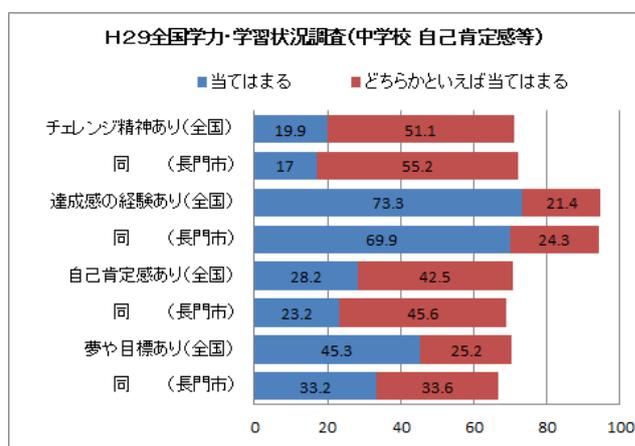
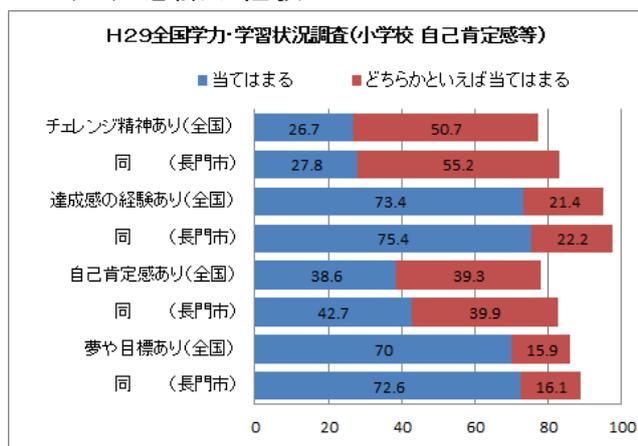
○小学校では、定刻に起床する児童、生徒の割合が高い。



◇小学校では、通塾率が34.7%とかなり低い。

◇中学校では、昨年度よりも通塾率が9.5%下がった。全国よりかなり低い。

(2) 意識や経験

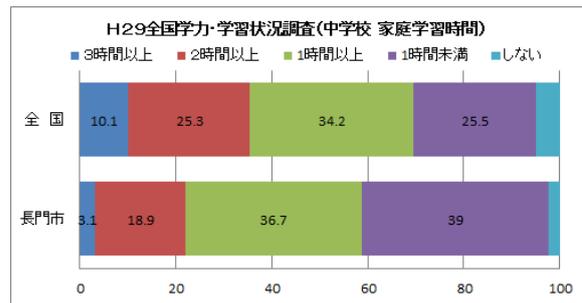
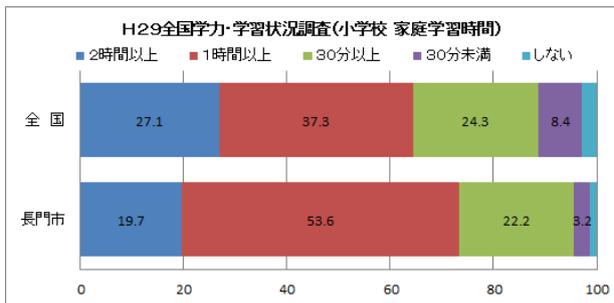


○ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験をもつ児童、生徒が多い。

●中学校において、自己肯定感を味わった生徒がやや少ない。

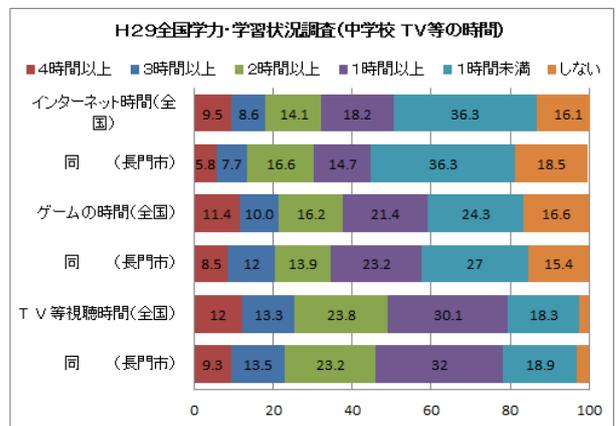
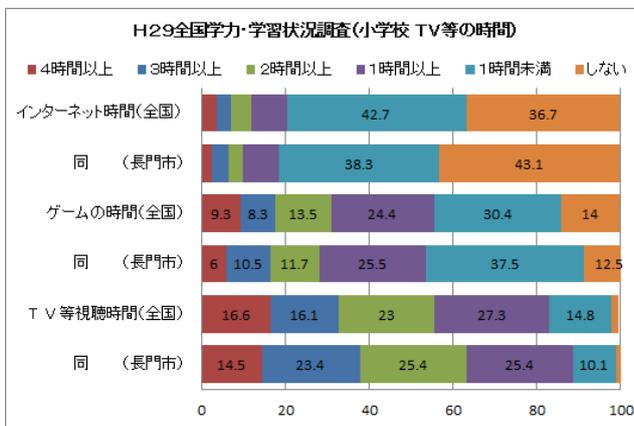
●中学校において、夢や目標をもつ生徒がやや少ない。

(3) 学習習慣



○小学校では1時間以上（2時間以上を含む）、家庭学習を行っている児童の割合が70%以上である。

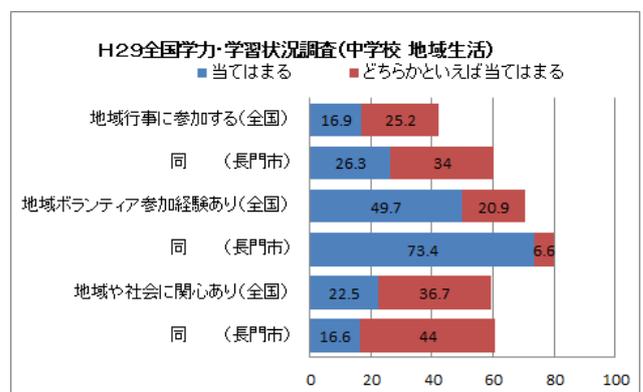
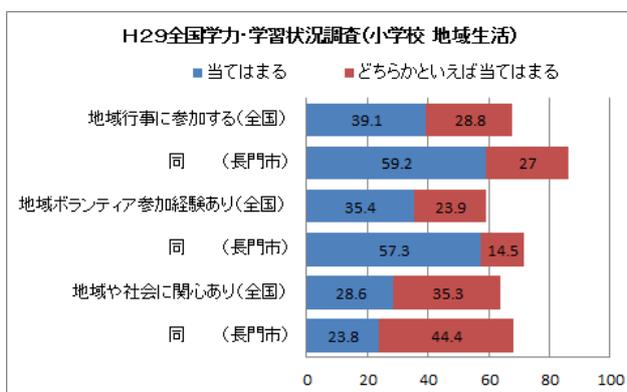
●中学校では、家庭学習が1時間未満の生徒の割合が39%であり、全国に比べ多い。



●インターネットやゲームの時間が、中学校になると増加する。

●小学校で、T V等視聴時間が2時間以上と3時間以上の児童の割合が高い。

(4) 地域生活

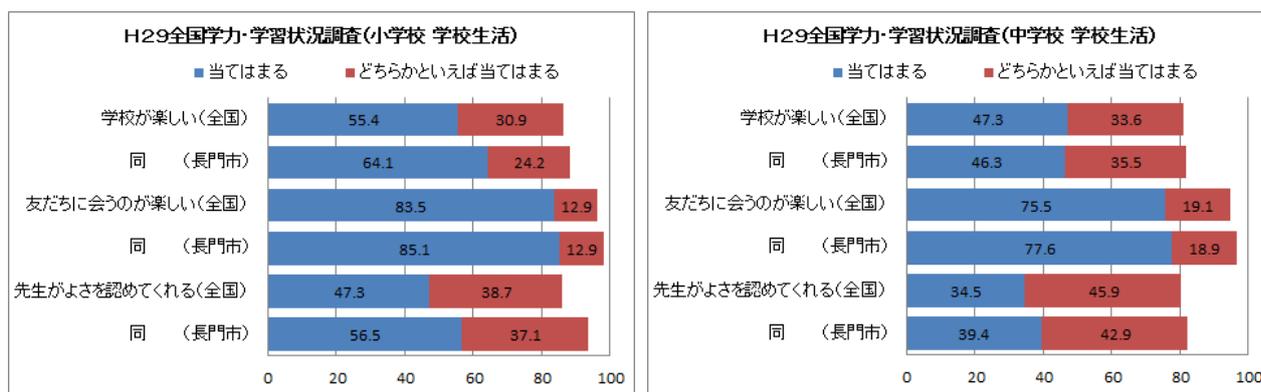


○地域行事に、積極的に参加する児童、生徒がかなり多い。

○地域ボランティアに参加したことがある児童、生徒がかなり多い。

○地域や社会に関心がある児童、生徒の割合が高い。

(5) 学校生活



- 学校が楽しいと感じている児童、生徒が多い。
- 友達と楽しく学校生活を送っている児童、生徒が多い。
- 先生が自分のよさを認めてくれていると感じる児童、生徒が多い。

3 今年度の取組

(1) 学校での組織的な取組の推進

- 学校全体で成果と課題を共有し、管理職や学力担当を中心に組織的な動きをつくり、全校体制で学力向上を推進する。
- 市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、全小・中学校での取組を検討し、各校のプランの見直し・改善を図る。
- みすゞ学園ごとに1名ほど先進校視察を行い、成果を生かした授業を行う。その成果を、市教委主催の研修会で共有し、市内の学校に実践を広めるとともに、小・中が連携しながら学力向上を推進する。
- 学校運営協議会で自校の結果の概要と今後の取組について確実に説明し、改善策を検討するとともに、家庭や地域との連携を図り、地域とともに学力向上に取り組む。
- 個人票を保護者に配布し、家庭との連携を図る。

(2) 指導方法の工夫改善

- 各校に長門市がめざす「わかる・できる」授業像を明確に示し、校長会や研修会を通じて市内全教員に共通理解を図る。
- 指導主事の地区担当や外部講師による効果的な指導方法の普及を図る。
- 各校で実施した全国学力・学習状況調査の誤答分析を基に、国語科や算数科、数学科で「理由やわけを書く」指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。

(3) 学習環境の整備

- 学力向上推進リーダー、推進校加配教員、教育力向上指導員、英語教育推進教員等が中心となり、小学校と中学校が連携した研修や交流を推進する。
- 子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制づくりの推進や幼保・小・中の連携を充実させるためのカリキュラムづくりを推進する。

(4) 学習習慣の確立

- 家庭との連携を推進し、「家庭学習」を充実させるための手だてを各校で検討し学習習慣の定着を図る。
- 県が作成した問題を活用したり、良問に数多く取り組ませたりする等、家庭学習の充実を図る。
- 長門市全小・中学校での、昨年度まで実施した生活習慣マネジメントサポート事業の取組を生かし、生活習慣の改善を図り、自主的な学習への取組を図る。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

- ・ 国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」
- ・ 山口県教育委員会 義務教育課 「全国学力・学習状況調査」